



ナカジュクの畑から!!

「東京農大に受かりました!」と、私のブログに卒業生から書き込みがありました。

自分が植えたさつまいもを食べた感動で農業の勉強をしたいと思ったとのこと。

ナカジュクでは、毎年5月、生徒と一緒に700株の苗を植えます。始めに、さつま(薩摩)いもの由来や、どの部分が実際食べるようになるのか? 植え方などを、目と耳で学びます。その後、一人ひとりに予め切っておいた30cmほどの竹棒を渡し、畝に対し斜め45度に穴を空け、苗を挿し、土を掛けるという簡単な作業をしていきます。簡単なようですが、意外と難しく、生徒が植えたままにしておくと、根付かない苗もあります。苗植えが終わるとグループに分かれて、案山子を作ります。いろいろな案山子ができて愉快です。その後、10月の収穫まで、有志のスタッフがひと月に一回ほどの間隔で草取りをしますが、心なしか以前は草取りをしなくても、どんな土壌でも立派に育って来ていましたが、最近のさつまいもは少々デリケートになってきたように思います。

自然と共に生きる力!

SDGs15



Sustainable Development Goals

さて、10月。『収穫祭』と称した、いもほりイベントです。おいもコンテストは、「重さ部門(過去、約2.3kgが最高)」「形の美しさ部門」で優勝を競います。掘りながら苗植えの時にスタッフが埋めたカプセル(宝物)探しもあるので、所々で「あったー!」という声が上がります。その後近くの県営公園(広いです)へ移動し、鬼ごっこなどでお腹を空かしてから、スタッフが心を込めて作った『いも料理(石焼きいも、大学いも、いも団子、スイートポテト、いも羊羹など)』を食べて、袋いっぱいのさつまいもを持って帰ります。

今年で25年になる苗植えのイベントですが、コロナの影響で、生徒の参加は叶わず、スタッフによって苗植えは無事完了しました。秋の『収穫祭』には、元気いっぱいの子どもたちが見られることを楽しみにしています。

ナカジュク 塾長 仲野十和田